



1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)居室棟(横浜)新築工事	階数	地上3F
建設地	神奈川県横浜市神奈川区恵比須町2番1,9,11,12,15	構造	S造
用途地域	工業専用地域、防火地域指定なし	平均居住人員	490 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,400 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年10月 竣工	評価の実施日	2021年8月2日
敷地面積	6,948 m <sup>2</sup>	作成者	橋本行央
建築面積	1,922 m <sup>2</sup>	確認日	2021年8月20日
延床面積	4,887 m <sup>2</sup>	確認者	天川拓也



### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

**BEE = 1.5**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

0 46 92 138 (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5  
Q1 室内環境: 4  
Q3 室外環境(敷地内): 3  
LR1 エネルギー: 3  
LR2 資源・マテリアル: 3  
LR3 敷地外環境: 3

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質** Q のスコア = 3.6

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.9

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.9

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.1

**LR 環境負荷低減性** LR のスコア = 3.2

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.0

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.4

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項		その他
<b>総合</b> 利用者に配慮し、F☆☆☆☆を使用している。主要給排水配管は耐用年数が高い材料を使用している。ライフサイクルコストの低減に努め、地球環境保護に配慮している。		特になし。
<b>Q1 室内環境</b> 開口部遮音性能:T-2以上。トップライト使用している。JIS・JAS規格のF☆☆☆☆をほぼ全面的に採用している。さらに、ホルムアルデヒド以外のVOCについても放散量が少ない建材を全面的に採用している。	<b>Q2 サービス性能</b> 事務室の天井高2.9m以上。建築基準法に定められた25%増の耐震性を有する。階高:3.9m以上。0.1≦[壁長さ比率]<0.3。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 外構緑化指数20%以上50%未満。建物緑化指数5%以上20%未満。建物高さ、壁面位置、外装・屋根・庇・開口部・塀等の形状や色彩において、周辺のまちなみや風景にバランスよく調和させている。植栽をして良好な景観を形成している。空地率60%以上80%未満。屋上緑化あり。高温排熱の放出部を設置しない。
<b>LR1 エネルギー</b> BPI <sub>m</sub> = 0.88。採光利用: トップライト。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> LGSとOAフロアを使用している。ODP=0、GWP=3の発泡剤を用いた断熱材を採用。	<b>LR3 敷地外環境</b> ライフサイクルCO <sub>2</sub> 排出率が、一般的な建物に対して93%。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



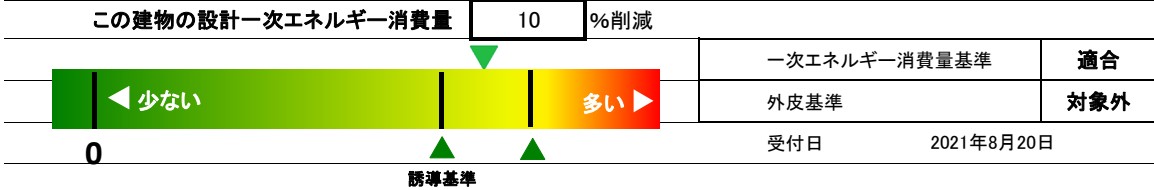
### 4 横浜市重点項目についての環境配慮概要 <非住宅>

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。

建物名称 (仮称)居室棟(横浜)新築工事

#### 建築物の省エネルギー性能 (E) Energy Saving 重点項目への取組(5点満点) 【省エネルギー性能】 2

##### ■省エネルギー性能 (国土交通省告示に基づく表示)



##### ■エネルギー対策 (①建物外皮の熱負荷抑制 ②自然エネルギー利用 ③設備システムの高効率化 ④効率的運用)

①BPI<sub>m</sub> = 0.88

②採光利用:トッライト。

#### 健康・快適な職住環境 (W) Smart Wellness Community 重点項目への取組(5点満点) 【快適・働きやすさ】 4

##### ■室内環境対策 (⑨温熱環境対策 ⑩光環境 ⑪空気質環境)

⑩日射の有無を判定できるセンサーを使い、ブラインドを自動で制御する。

⑪居室の有効換気量は30m<sup>3</sup>/h人以上。

##### ■機能性対策 (⑫機能性 ⑬知的生産性向上の取組)

⑫事務室の天井高2.9m以上。

##### ■室外環境(敷地内)対策 (⑭敷地内温熱環境の向上)

#### 防災への配慮 (R) Resilience 重点項目への取組(5点満点) 【防災】 4

##### ■耐用性・信頼性 (⑮耐震・免震 ⑯部品・部材の耐用年数向上 ⑰信頼性)

⑮建築基準法に定められた25%増の耐震性を有する。

⑯給水 VP(B)、排水 VP(B)、給湯 SUS(C)、Eは不使用。

⑰耐震クラスA。

#### 地域・まちづくりへの貢献 (T) Township & Townscape 重点項目への取組(5点満点) 【地域・まちづくり】 3

##### ■室外環境(敷地内)対策 (⑱生物環境 ⑲まちなみ・景観 ⑳地域性への配慮)

⑲植栽をして良好な景観を形成している。

太陽光発電などの導入

環境配慮技術の導入

(太陽光・熱利用、エネルギーマネジメントシステム以外)

エネルギーマネジメントシステム導入



CASBEE横浜2017年版v.1.4  
(仮称)居室棟(横浜)新築工事

バージョン CASBEE横浜2017年版v.1.4

スコアシート		実施設計段階		重点項目		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		<非住宅>	<集合住宅>	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
<b>Q 建築物の環境品質</b>										<b>3.6</b>
<b>Q1 室内環境</b>										<b>3.9</b>
<b>1 音環境</b>				<b>3.6</b>	0.15	-	-			<b>3.6</b>
1.1 騒音				3.0	0.40	-	-			-
1.2 遮音				<b>4.2</b>	0.40	-	-			-
1		開口部遮音性能		5.0	0.60	-	-			-
2		界壁遮音性能		3.0	0.40	-	-			-
3		界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	-			-
4		界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	-	-			-
1.3 吸音				<b>4.0</b>	0.20	-	-			-
<b>2 温熱環境</b>				<b>3.1</b>	0.35	-	-			<b>3.1</b>
2.1 室温制御				<b>3.3</b>	0.50	-	-			-
1		室温	快適・働きやすさ ⑨温熱環境	3.0	0.38	-	-			-
2		外皮性能	快適・働きやすさ 健康・安心 ⑨温熱環境 ⑤外皮性能	3.0	0.25	-	-			-
3		ゾーン別制御性	快適・働きやすさ ⑨温熱環境	4.0	0.38	-	-			-
2.2 湿度制御				<b>3.0</b>	0.20	-	-			-
2.3 空調方式				<b>3.0</b>	0.30	-	-			-
<b>3 光・視環境</b>				<b>4.5</b>	0.25	-	-			<b>4.5</b>
3.1 昼光利用				<b>4.6</b>	0.30	-	-			-
1		昼光率	快適・働きやすさ ⑩光環境	5.0	0.60	-	-			-
2		方位別開口	快適・働きやすさ ⑩光環境	-	-	-	-			-
3		昼光利用設備	快適・働きやすさ ⑩光環境	4.0	0.40	-	-			-
3.2 グレア対策				<b>5.0</b>	0.30	-	-			-
1		昼光制御	快適・働きやすさ ⑩光環境	5.0	1.00	-	-			-
3.3 照度				<b>3.0</b>	0.15	-	-			-
3.4 照明制御				<b>5.0</b>	0.25	-	-			-
<b>4 空気環境</b>				<b>4.5</b>	0.25	-	-			<b>4.5</b>
4.1 発生源対策				<b>5.0</b>	0.50	-	-			-
1		化学汚染物質	快適・働きやすさ ⑪空気環境	5.0	1.00	-	-			-
4.2 換気				<b>4.0</b>	0.30	-	-			-
1		換気量	快適・働きやすさ ⑪空気環境	4.0	0.33	-	-			-
2		自然換気性能	快適・働きやすさ ⑪空気環境	3.0	0.33	-	-			-
3		取り入れ外気への配慮	快適・働きやすさ ⑪空気環境	5.0	0.33	-	-			-
4.3 運用管理				<b>4.0</b>	0.20	-	-			-
1		CO <sub>2</sub> の監視	快適・働きやすさ ⑪空気環境	3.0	0.50	-	-			-
2		喫煙の制御	快適・働きやすさ ⑪空気環境	5.0	0.50	-	-			-
<b>Q2 サービス性能</b>				-	0.30	-	-			<b>3.9</b>
<b>1 機能性</b>				<b>3.8</b>	0.40	-	-			<b>3.8</b>
1.1 機能性・使いやすさ				<b>3.3</b>	0.40	-	-			-
1		広さ・収納性	快適・働きやすさ ⑫機能性	3.0	0.33	-	-			-
2		高度情報通信設備対応	快適・働きやすさ ⑫機能性	4.0	0.33	-	-			-
3		バリアフリー計画	快適・働きやすさ ⑫機能性	3.0	0.33	-	-			-
1.2 心理性・快適性				<b>5.0</b>	0.30	-	-			-
1		広さ感・景観	快適・働きやすさ ⑫機能性	5.0	0.33	-	-			-
2		リフレッシュスペース	快適・働きやすさ ⑫機能性	5.0	0.33	-	-			-
3		内装計画	快適・働きやすさ ⑫機能性	5.0	0.33	-	-			-
1.3 維持管理				<b>3.5</b>	0.30	-	-			-
1		維持管理に配慮した設計	快適・働きやすさ ⑫機能性	4.0	0.50	-	-			-
2		維持管理用機能の確保	快適・働きやすさ ⑫機能性	3.0	0.50	-	-			-
<b>2 耐用性・信頼性</b>				<b>3.6</b>	0.30	-	-			<b>3.6</b>
2.1 耐震・免震				<b>3.8</b>	0.50	-	-			-
1		耐震性	防災 ⑮耐震・免震	4.0	0.80	-	-			-
2		免震・制振性能	防災 ⑮耐震・免震	3.0	0.20	-	-			-
2.2 部品・部材の耐用年数				<b>3.3</b>	0.30	-	-			-
1		躯体材料の耐用年数	防災 ⑯部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.20	-	-			-
2		外壁仕上げ材の補修必要間隔	防災 ⑯部品・部材の耐用年数向上	2.0	0.20	-	-			-
3		主要内装仕上げ材の更新必要間隔	防災 ⑯部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.10	-	-			-
4		空調換気ダクトの更新必要間隔	防災 ⑯部品・部材の耐用年数向上	4.0	0.10	-	-			-
5		空調・給排水配管の更新必要間隔	防災 ⑯部品・部材の耐用年数向上	4.0	0.20	-	-			-
6		主要設備機器の更新必要間隔	防災 ⑯部品・部材の耐用年数向上	4.0	0.20	-	-			-
2.4 信頼性				<b>3.8</b>	0.20	-	-			-
1		空調・換気設備	防災 ⑰信頼性	3.0	0.20	-	-			-
2		給排水・衛生設備	防災 ⑰信頼性	4.0	0.20	-	-			-
3		電気設備	防災 ⑰信頼性	4.0	0.20	-	-			-
4		機械・配管支持方法	防災 ⑰信頼性	4.0	0.20	-	-			-
5		通信・情報設備	防災 ⑰信頼性	4.0	0.20	-	-			-
<b>3 対応性・更新性</b>				<b>4.2</b>	0.30	-	-			<b>4.2</b>
3.1 空間のゆとり				<b>4.6</b>	0.30	-	-			-
1		階高のゆとり		5.0	0.60	-	-			-
2		空間の形状・自由さ		4.0	0.40	-	-			-
3.2 荷重のゆとり				<b>5.0</b>	0.30	-	-			-
3.3 設備の更新性				<b>3.4</b>	0.40	-	-			-
1		空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-			-
2		給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-			-
3		電気配線の更新性		5.0	0.10	-	-			-
4		通信配線の更新性		5.0	0.10	-	-			-
5		設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-			-
6		バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-			-



CASBEE横浜2017年版v.1.4

(仮称)居室棟(横浜)新築工事

バージョン CASBEE横浜2017年版v.1.4

スコアシート		実施設計段階		重点項目		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		<非住宅>	<集合住宅>	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
		<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>				-	0.30	-	-	
1 生物環境の保全と創出		地域・まちづくり	⑩生物環境の保全と創出	3.0	0.30	-	-			3.0
2 まちなみ・景観への配慮		地域・まちづくり	⑨まちなみ・景観への配慮	4.0	0.40	-	-			4.0
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>				2.0	0.30	-	-			2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		地域・まちづくり	⑫地域性への配慮	1.0	0.50	-	-			-
3.2 敷地内温熱環境の向上		快適・働きやすさ	⑭敷地内温熱環境の向上	3.0	0.50	-	-			-
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>				-	-	-	-			3.2
<b>LR1 エネルギー</b>				-	0.40	-	-			3.0
1 建物外皮の熱負荷抑制		省エネルギー性能	①建物の熱負荷抑制	4.2	0.20	-	-			4.2
2 自然エネルギー利用		省エネルギー性能	②自然エネルギー利用	4.0	0.10	-	-			4.0
3 設備システムの高効率化		省エネルギー性能	③設備システムの高効率化	2.5	0.50	-	-			2.5
<b>4 効率的運用</b>				3.0	0.20	-	-			3.0
集合住宅以外の評価				3.0	1.00	-	-			-
4.1 モニタリング		省エネルギー性能	④効率的運用	3.0	0.50	-	-			-
4.2 運用管理体制		省エネルギー性能	④効率的運用	3.0	0.50	-	-			-
集合住宅の評価				-	-	-	-			-
4.1 モニタリング		省エネルギー性能	④効率的運用	-	-	-	-			-
4.2 運用管理体制		省エネルギー性能	④効率的運用	-	-	-	-			-
<b>LR2 資源・マテリアル</b>				-	0.30	-	-			3.4
<b>1 水資源保護</b>				3.5	0.20	-	-			3.5
1.1 節水				4.0	0.40	-	-			-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.3	0.60	-	-			-
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.70	-	-			-
2 雑排水等利用システム導入の有無				4.0	0.30	-	-			-
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>				3.4	0.60	-	-			3.4
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.10	-	-			-
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.20	-	-			-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				3.0	0.20	-	-			-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				4.0	0.20	-	-			-
2.5 持続可能な森林から産出された木材				2.0	0.10	-	-			-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み				5.0	0.20	-	-			-
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>				3.3	0.20	-	-			3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.30	-	-			-
3.2 フロン・ハロンの回避				3.5	0.70	-	-			-
1 消火剤				-	-	-	-			-
2 発泡剤(断熱材等)				4.0	0.50	-	-			-
3 冷媒				3.0	0.50	-	-			-
<b>LR3 敷地外環境</b>				-	0.30	-	-			3.2
<b>1 地球温暖化への配慮</b>				3.2	0.33	-	-			3.2
<b>2 地域環境への配慮</b>				3.3	0.33	-	-			3.3
2.1 大気汚染防止				4.0	0.25	-	-			-
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.50	-	-			-
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.2	0.25	-	-			-
1 雨水排水負荷低減				3.0	0.25	-	-			-
2 汚水処理負荷抑制				4.0	0.25	-	-			-
3 交通負荷抑制				3.0	0.25	-	-			-
4 廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-			-
<b>3 周辺環境への配慮</b>				3.2	0.33	-	-			3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	-			-
1 騒音				3.0	1.00	-	-			-
2 振動				-	-	-	-			-
3 悪臭				-	-	-	-			-
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40	-	-			-
1 風害の抑制				3.0	0.70	-	-			-
2 砂塵の抑制				1.0	-	-	-			-
3 日照障害の抑制				3.0	0.30	-	-			-
3.3 光害の抑制				4.4	0.20	-	-			-
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				5.0	0.70	-	-			-
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30	-	-			-
<b>上記以外の重点項目</b>										-
<b>&lt;事務用途&gt;</b>										-
知的生産性向上への取組		快適・働きやすさ	⑬知的生産性向上への取組	3.0	-	-	-			-
<b>&lt;住宅用途&gt;</b>										-
<b>健康と安心</b>										-
1 化学汚染物質の対策		健康・安心	⑥健康対策	-	-	-	-			-
2 適切な換気計画		健康・安心	⑥健康対策	-	-	-	-			-
3 結露・カビ対策		健康・安心	⑥健康対策	-	-	-	-			-
4 犯罪に備える(共用部の防犯対策)		健康・安心	⑦防犯対策	-	-	-	-			-